

夫絶天地之統¹、何有夫婦父子君臣師弟子乎²。主通天教³、助帝王而化成天下⁴、故食飲與男女相須⁵、二者大急。夫衣者依也⁶。有衣即生賢、無衣則生不肖也。故衣以禦害。故古者聖帝王不效玄黃之色⁷、但禦寒暑而已⁸。飲食陰陽不可絶、絶之天下無復君臣父子之道。守此三者、以竟天年⁹、傳其天統、終者復始¹⁰、無有窮已。古者聖人以此爲理¹¹、其餘皆不急、但召凶禍¹²。

「夫絶天地之統、何有夫婦父子君臣師弟子乎」、「太平經」作「如男女不相得、便絶無後世、天下無人、何有夫婦父子君臣師弟子乎」。

「助帝王而化成天下」、「太平經」作「助帝王化天下」。

「故食飲與男女相須、二者大急」、「太平經」作「故此飲食與男女相須、二者大急」。

「有衣即生賢、無衣則生不肖也。」、「太平經」作「夫人不衣、固不能飲食、合陰陽、不爲其善、衣則生賢、無衣則生不肖也」

「故衣以禦害」、「太平經」作「故衣者、有以禦害而已」。

「絶之天下無復君臣父子之道」、「太平經」作「絶之天下無人不可治也」。

「以竟天年」、「太平經」作「足以竟其天年」。

「以此爲理」、「太平經」作「以此爲治也」。

「但召凶禍」、「太平經」作「召凶禍物者悉已去矣」。

夫れ天地の統を絶てば、何ぞ夫婦父子君臣師弟子有らんや。天教に通ずるを主とし、帝王を助けて天下を化成す。故に食飲と男女相須つと、二者は大急なり。夫れ衣なる者は依なり。衣有れば即ち賢を生じ、衣無ければ則ち不肖を生ずるなり。故に衣は以て害を禦ぐ。故に古者聖帝王は玄黃の色を效さず、但だ寒暑を禦ぐのみ。飲食陰陽は絶つべからず、之を絶てば天下復た君臣父子の道無し。此の三者を守れば、以て天年を竟へ、其の天統を傳へ、終れば復た始まり、窮まり有ること無きのみ。古者聖人は此を以て理を爲し、其餘は皆な不急にして、但だ凶禍を召くのみ。

そもそも天地の統を断絶してしまえば、どうして夫婦父子君臣師弟子が存在するだろうか。天の教えに通じること第一とし、帝王が天下を教化して理想の状態とするのを助けるのだ。だから、飲食と男女の交わり、この二者は大いに緊急なことである。そもそも「衣」とは「依」の意味であり、衣があれば賢なる子が生まれるし、衣がないと不肖の子が生まれる。だから衣は害を防ぐものである。従っていにしえ、聖帝明王は衣服に玄黃の色を施さず、寒暑を防ぐ役割だけを持たせたのである。飲食と男女の交わりは、絶つことはできない。これを絶ってしまえば天下にはもはや君臣父子の道はなくなってしまう。この三者を守っていけば、天寿を全うし、天統を次の世代に伝え、ひとつが終わってもまた次が始まり、無限に続いていくのである。いにしえ、聖人はこれをもとに治世を行ったのであつて、それ以外はみな不急のことで、いたずらに禍を招くだけのものなのだ。

- 1 絕天地之統
『後漢書』襄楷列傳李賢注引太平經興帝王篇「今太平氣到、或有不生子者、反斷絕天地之統、使國少人。」4-1081
『太平經鈔』卷三「夫貞男不施、貞女不化、陰陽不交、滅絕世類、二人共絕天地之統、貪虛僞之名、反無後世、失其實核、此天下大害也。」(3-2a)
- 2 師弟子
『太上洞玄靈寶智慧本願大戒上品經』「夫爲父母兄弟姊妹夫妻君臣師保朋友、皆前世所念願爲因緣展轉相生也」(3a)
主通天教
- 3 『太平經鈔』卷六「其符合主天心、和者主施、開者主通、明者主理。」(6a)
『太平經』卷八十六「夫門戶乃主通事、今下戶不上行、返上門通門而下、知爲下辭、會見斷絕、不得上行也。」(312)
『晏子春秋』諫上「公西面望、睹彗星、召伯常騫、使禳去之。晏子曰、不可。此天教也。」(66)
- 4 『太平經』卷四十九「夫無德之人、天不愛、地不喜、人不欲親近之、其行常行事不爲德、乃爲王者致害、爲君子致災、鬼神承天教、不久與爲治。」(36)
助帝王而化成天下
『毛詩』大序「周南召南、正始之道、王化之基。」(1-1-18b)
『弘明集』卷五、沙門不敬王者論「斯乃佛教之所以重資生、助王化於治道者也。」(T52-30b)
- 5 『周易』恒卦彖傳「聖人久於其道、而天下化成。」(45a)
食飲與男女相須
『尚書』酒誥「爾乃飲食醉飽。」(14-17b)
『周禮』天官膳夫「掌王之食飲膳羞以養王及后世子。」(4-1a)
『周易參同契』「男女相須、含吐以滋、雌雄錯雜、以類相求。」(40)
『禮記』「飲食男女、人之大欲存焉。」(22-4a)
- 6 衣者依也
『說文解字』八篇上「衣、依也。上曰衣、下曰裳。象覆二人之形。」(48b)
『積名』積衣服「凡服、上曰衣。衣、依也。人所依以芘寒暑也。」(5-1a)
- 7 玄黃
『藝文類聚』卷四、曹植元會詩「初歲元祚、吉日惟良、乃爲嘉會、宴此高堂、衣裳鮮潔、黼黻玄黃。」(59)
禦寒暑
- 8 『漢書』刑法志「爪牙不足以供耆欲、趨走不足以避利害、無毛羽以禦寒暑。」(1079)
竟天年
- 9 『莊子』山木「莊子行於山中、見大木枝葉盛茂、伐木者止其旁而不取也。問其故、曰、无所可用。莊子曰、此木以不材得終其天年。」(667)
- 10 終者復始

11 『周易』恒、彖伝「天地之道恒久而不已也。利有攸往、終則有始也。」(45a)
以此為理

『文子』九守・守法「聖人以静為治、以動為亂。」(152)

12 凶禍

『論衡』命義「隨命者、戮力操行而吉福至、縱情施欲而凶禍到、故曰隨命。」(49)

夫男者天也、女者地也。衣食者中和¹。過此三者、其餘皆僞之物²、非可須爲活。反多致禍姦³、致理不平⁴、和氣不至⁵、天道乖錯⁶、爲君子重憂⁷、六情所好⁸、人不能禁止⁹、因以致禍。君子失其政令¹⁰、小人盜劫心生¹¹、家亡國敗¹²、未嘗不因不急之物召之。天下貧困愁苦¹³、災變¹⁴、下極欺上¹⁵、日就浮華¹⁵、因而愁苦¹⁶、不竟天年¹⁶、復使後生趨走不止¹⁷、山川爲空竭¹⁸、元氣斷絶¹⁹、地氣衰弱²⁰、生養萬物不成¹⁹、天災變改²⁰、生民稍耗²¹、姦僞復生²²。不急之物爲害若此²³、而欲悅耳目之娛²⁴、而不悟深深巨害矣²⁵。

夫れ男なる者は天なり、女なる者は地なり、衣食なる者は中和なり。此の三者を過ぐれば、其餘は皆な僞の物にして、須ちて活を爲すべきに非ず。反りて多く禍姦を致し、致理平らかならず、和氣至らず、天道乖錯し、君子の重き憂ひと爲る。六情の好む所、人禁止する能はず、因りて以て禍を致す。君子其の政令を失ひ、小人盜劫の心生じ、家亡び國敗るは、未だ嘗て不急の物に因りて之を召かずんばあらず。天下貧困愁苦し、災變あり、下上を欺くを極め、日び浮華に就き、因りて愁苦し、天年を竟へず、復た後生をして趨走して止まざらしむ。山川は空竭を爲し、元氣は斷絶し、地氣は衰弱し、万物を生養して成らず、天災變改し、生民稍く耗き、姦僞復た生ず。不急の物の害を爲すこと此の若し。而るに耳目の娛を悦ばしめんと欲するも深深たる巨害たるを悟らず。

そもそも男は天であり、女は地であり、衣食は中和である。この三つのもの以外は、みな本当に大事なものではなく、生きるために是非とも必要だというものではない。そうではなくてかえって禍をもたらすことが多いものであり、それがもとで治世は不平、和氣がゆきわたらず、天道は乖離倒錯し、君子の重大な心配事となる。人の六情が好むものは、他人が押しとどめることはできないものであつて、それがもとで禍がもたらされるのである。君子があやまつた政令を行い、小人には強盜の心が生じ、家は亡び國は敗れるのは、不急の事柄によつてまねかれなかつたことはないのだ。天下は貧困愁苦し、災變がおこり、下が上をひどく欺き、日に日にうわべだけの華やかさを追い求めるようになり、それによつて自ら愁苦を招き、天寿を全うできず、さらには後の世代の者たちもそれを追い求めてやまぬようにさせてしまう。山川は崩れ尽き、元氣の流れは斷絶し、地氣が衰弱して、万物を育成できず、天災がさまざまに起こり、人々はしだいに疲れ、さらに姦僞が生じることになる。不急の事物がもたらす害悪はこのようなものであるのに、耳目の喜びを楽しませようとするばかりで、深甚な大害がそこにあることに気がついていないのだ。

「夫男者天也、女者地也」、「『太平經』無「夫」字。

「其餘皆僞之物、非可須爲活」、「『太平經』作「其餘奇僞之物、不必須之而活」。

「反多致禍姦、致理不平、和氣不至」、「『太平經』作「反多以致僞姦、使治不平、皇氣不得至」。

「人不能禁止」、「『太平經』作「人人嬉之、而不自禁止、意轉樂之」。

「小人盜劫心生、家亡國敗、未嘗不因不急之物召之」、「『太平經』作「小人盜劫刺、皆由此不急之物爲召之也」。

「災變、下極欺上」、「『太平經』作「災變連起、下極欺其上」。

「日就浮華、因而愁苦、不竟天年」、「『太平經』作「悉就浮華、因還自愁自害、不得竟其

「天年也」。

「復使後生趨走不止」、「太平經」作「後生多事紛紛、但以其爲不急之事、以致凶事、故常趨走不得止也」。

(參考)『太平經』本文

世世不絕天地統也、如男女不相得、便絕無後世、天下無人、何有夫婦父子君臣師弟子乎、以何相生而相治哉、天地之間無牝牡、以何相傳、寂然便空、二大急也、故陰陽者、傳天地統、使無窮極也、君臣者、治其亂、聖人師弟子、主通天教、助帝王化天下、故此飲食與男女相須、二者大急、天道有寒熱、不自障隱、半傷殺人、故天爲生萬物、可以衣之、不衣、但穴處隱同活耳、愁半傷不盡滅死也、此名爲半急也、所謂天道大急者、廼謂絕滅死亡也、急無過此也、夫人不衣、固不能飲食、合陰陽、不爲其善、衣則生賢、無衣則生不肖也、故衣者、有以禦害而已、故古者聖賢不效玄黃也、飲食陰陽不可絕、絕之天下無人、不可治也、守此三者、足以竟其天年、傳其天統、終者復始、無有窮已、故古者聖人以此爲治也、其餘不急、召凶禍物者悉已去矣、何謂也、此三者應天行、男者天也、女者地也、衣者依也、天地父母所以依養人形身也、過此三者、其餘奇僞之物、不必須之而活、傳類相生也、反多以致僞姦、使治不平、皇氣不得至、天道乖錯、爲君子重憂、六情所好、人人嬉之、而不自禁止、意轉樂之、因以致禍、君子失其政令、小人盜劫刺、皆由此不急之物爲召之也、天下貧困愁苦、災變連起、下極欺其上、皆以此爲大害、所從來者久、亦非獨今下古後世之人過也、傳相承負、失其本眞實、悉就浮華、因還自愁自害、不得竟其天年也、後生多事紛紛、但其爲不急之事、以致凶事、故常趨走不得止也、

1 中和

『禮記』樂記「樂者天地之命、中和之紀、人情之所不能免也。」(39-21b)

『潛夫論』本訓「天本諸陽、地本諸陰、人本中和、三才異務、相待而成。」(366)

『太平經鈔』卷二「元氣有三名、太陽、太陰、中和。」(8a)

2 僞之物

『漢書』韓延壽傳「百姓遵用其教、賣偶車馬下里僞物者、棄之市道。」(3210)

3 禍姦

『尚書』盤庚上「乃敗禍姦宄以自災于厥身。」(9-6b)

『靈寶无量度人上品妙經』卷四十二「生孽繁榮、永離禍姦、魂魄和明、合道長生、是謂无量、普度无窮。」(17a)

4 致理

『史記』范雎蔡澤列傳「設刀鋸以禁姦邪、信賞罰以致治。」(2420)

5 和氣不至

『後漢書』禮儀志中、李賢注所引樂叶圖徵「天地以和氣至則和氣應、和氣不至則天地和氣不應。」(3127)

『論衡』感虛「王者何須修身正行、擴施善政、使鼓調陰陽之曲、和氣自至、太平自立矣。」(245)

6 乖錯

- 7 重憂
『三國志』吳書諸葛瑾傳「夫威柄不專、則其事乖錯。」(1234)
『後漢書』陳俊列傳「負海猾夏、盜賊之處、國家以為重憂、且勉鎮撫之。」(691)
- 8 六情
『韓詩外傳』卷五「人有六情、目欲視好色、耳欲聽官商、鼻欲嗅芬香、口欲嗜甘旨、其身體四肢欲安而不作、衣欲被文繡而輕暖。此六者、民之六情也。」(474)
- 9 禁止
『史記』秦始皇本紀「諸侯更相誅伐、周天子弗能禁止。」(239)
- 10 政令
『周禮』天官小宰「掌建邦之官刑、以治王官之政令、凡官之糾禁。」(3-1a)
- 11 盜劫
『史記』田叔列傳「是時孟舒坐虜大入塞盜劫、雲中尤甚、免。」(2776)
『韓非子』存韓「臣恐陛下淫非之辯而聽其盜心、因不詳察事情。」(17)
- 12 家亡國敗
『孟子』離婁上「不仁而可與言、則何亡國敗家之有。」(7上12a)
- 13 貧困愁苦
『韓非子』奸劫弑臣「夫施與貧困者、此世之所謂仁義、哀憐百姓、不忍誅罰者、此世之所謂惠愛也。」(104)
『楚辭』涉江「吾不能變心而從俗兮、固將愁苦而終窮。」(131)
- 14 災變
『論衡』自然「夫天無爲、故不言。災變時至、氣自爲之。」(785)
- 15 浮華
『論衡』自紀「其文盛、其辯爭、浮華虛偽之語、莫不澄定。」(1194)
- 16 竟天年
『通極論』(『廣弘明集』卷四)「竊見、景行不虧、天身世而嬰禍、狂勃無禮、竟天年而享福、遭隨若斯、因果何驗。」(T52-116b)
- 17 後世趨走
『毛詩』殷武「壽考且寧、以保我後生。」(20-4-14b)
『列子』周穆王「昔昔夢為人僕、趨走作役、無不為也。」(106)
- 18 山川爲空竭
『春秋左氏傳』成公五年「梁山崩：國主山川、故山崩川竭、君為之不舉。」(杜注：主謂所主祭。去盛饌。)(12-15b)
『後漢書』西羌列傳東號子麻奴「軍旅之費、轉運委輸、用二百四十餘億、府帑空竭。」(2891)
- 19 生養萬物不成
『管子』形勢解「地生養萬物、地之則也。」(1168)
『淮南子』天文訓「天不發其陰則萬物不生、地不發其陽則萬物不成。」(107)
- 20 天災變改
『春秋左氏傳』僖公十三年「天災流行、國家代有、救災恤鄰、道也。」(5-19b)
『史記』禮書「叔孫通頗有所增益減損、大抵皆襲秦故、自天子稱號、下至佐僚及宮室官

- 名、少所變改。」(1159)
- 21 生民稍耗
『尚書』畢命「道洽政治、澤潤生民。」(19-9b)
『春秋左氏傳』襄公二十八年「土虛而民耗、不饑何為。」正義「人民耗損」(38-20a)
- 22 姦僞
『韓非子』六反「姦僞無益之民六、而世譽之如彼。耕戰有益之民六、而世毀之如此。」(416)
- 23 不急之物為害
『漢書』元帝紀「興不急之事、以妨百姓、使失一時之作、亡終歲之功。」(296)
- 24 悅耳目之娛
『荀子』性惡「生而有耳目之欲、有好聲色焉。順是、故淫亂生而禮義文理亡焉。」(434)
- 25 深深巨害
『史記』李斯列傳「飾後宮充下陳、娛心意說耳目者、必出於秦、然後可。」(2543)
- 『莊子』大宗師「古之真人、其寢不夢、其覺無憂、其食不甘、其息深深。」(228)
- 『後漢書』應劭列傳「今狡寇未殄、而羌為巨害。如或致悔、其可追乎。」(1610)